

第1章

ツインクルプログラムの新展開

ここまでツインクルプログラムは、大学院を中心とする教育活動として

- ・文理融合によるアクティブラーニングを主体とする教育活動
- ・グローバルリーダー教育
- ・他者理解とこれに基づくプレゼンテーション能力強化

において非常に多くの成果を上げてきた。

また、ツインクルプログラムによる交流活動は単に学生の交換にとどまらず教員さらには職員の交流も盛んにするという副次的効果が得られており、大学の世界展開力強化のベースとなっている。

ツインクルプログラムのこれまでの取り組みは、学生教育の視点からは

1. 教員養成のグローバル化の一層の推進のための発展
2. 理系グローバル人材養成功率強化

であり、

国際交流活動の視点からは

～もう一度尊敬される日本を ASEAN 諸国で取り戻す。

- ・科学・技術文化を核として日本を伝える
- ・学齢期の子どもたちに働きかける
- ・新しい研究・交流のシーズを生み出す

ことであった。

ここまでの活動成果のまとめを次ページに示す。

構想の目的・概要及び交流プログラムの内容

① 構想の目的・概要等

【構想の目的及び概要】

本構想は、千葉大学において教育学研究科院生・学部生と工学、園芸学研究科などの院生の2者が協働し、千葉大学が世界に誇る先端研究を小・中・高等学校において展開可能な授業へと開発するものである。さらにこの授業および教材を英語化し、各年度約80名の院生・学部生を送りだし、千葉大学・ASEAN拠点大学コンソーシアムと連携する現地小・中・高等学校において授業を実施し、ASEANの日本ファンを育成するとともに大学院生がグローバル人材としての能力を獲得するものである。この事業の特徴は2つの人材を1つのプログラムの中で養成・開発するところにある。すなわちグローバルな教育能力と視点を持つ教員と、教育マインドを持つグローバル研究者の養成・開発である。実践的教育研究に取り組む教育学研究科と最先端科学研究に取り組む他研究科の院生とのカップリングはこれまでにない新たな試みであり、両者の化学反応により生まれるグローバル人材は、単なる人材養成とは異なる「人材開発型」の教育プログラムの構築が行われることを意味する。このプログラムの遂行により育成された人材が、将来のASEANと日本の相互発展の担い手となる。事業実施のカギを握る教育学研究科・学部では、平成24年度、**教育研究のグローバル拠点として教員養成開発センターを新たに始動**させた。当センターは従来の大学院研究科の枠組みを超えた**大学横断的組織として教育研究プロジェクトを実施可能**であり、これまでにはない戦略的授業・教材研究さらにはグローバル対応教員の養成カリキュラム開発を行うことが可能となる。従って、本申請では教員養成開発センターを核とし、バックグラウンドが異なる研究科院生・学部生のカップリングによる協働促進カリキュラムを作成することで、ASEAN拠点大学との単位互換制度によるショートコースおよびロングコースを組み込んだ学位取得をも可能とする実践展開型授業プログラムを開発し、グローバル教員の養成を含む日本とASEANの架け橋となる新たな人材開発システムを構築する。

【養成する人材像】

わが国に居住する外国人の数は年々増加し、それに伴い小中学校に入学する外国人子弟の数も増加していることから、現場の教員は必然的にグローバルな教育能力を持つことが求められている。しかし、日本において教育現場の国際化が進んでいるにもかかわらず、教員養成のグローバル対応が一向に進んでいないことへの逼迫感がある。したがって海外からの人材流入に対応する教育能力獲得は喫緊の課題であり本構想の重要なテーマである。このことから外国語力スタンダードとして、本プログラムでは文部科学省が明示して

いる英語教員に求められる基準TOEIC730、すなわち「どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えている」を本プログラム修了の全大学院生が達成することを目指す。

さらに日本・ASEANの架け橋として、教育学研究科・学部参加者に関してはグローバルな視野をもった教育者としての素養を身につけることを目指す。この結果、帰国後は勤務校においてグローバル人材育成促進を行うリーダーとしての役割を担う。さらには教育研究における国際交流の担い手となることが考えられる。教育学部以外の研究科院生は、将来研究者を目指すものにおいては、将来ASEANにおいて研究活動をする素地として、将来企業に就職するものについてはASEANを中心にビジネス展開の基盤作りをする。

【本構想で計画している交流学生数】 ※各年度の構想全体の派遣及び受入合計人数。

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
合計人数	40名	5名	80名	41名	96名	28名	96名	28名	96名	28名
申請時の構 想調書記載 人数	40名	5名	80名	16名	80名	16名	80名	16名	80名	16名
海外相手大 学追加調書 分	0名	0名	0名	25名	16名	12名	16名	12名	16名	12名